

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		ライフエナジーチェェェコロ				公表日	令和8年 2月 28日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		人数が増え、狭い状況の時もあるが別室にてトレーニングをするなど適切な環境となるよう心掛けている。個別療育しやすいスペースが確保されていると思う。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		利用人数や状態に合わせて職員の人数調整が出来ている。死角が生れないようにスタッフが移動し、児童のコミュニケーション促進のための位置取りをしている。	時折、子ども一人に職員1人つくのが必須の事があるが、手薄とならない様に声をかけ合っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	活動ごとに場所を分けたり、時間で仕切る事で構造化されている。スケジュールが視覚化され、分かりやすい工夫をしている。	1部段差があるが、現在利用している子供ちに対しては配慮出来ている。全てがバリアフリーでは無いため死角もある。手洗いや歯磨きを主に水道から水しか出ない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	1	環境に合わせての環境設定は勿論、時間に応じて清掃を1日3回行うようにしている。利用人数が多い時には適宜活動スペースを分ける等の配慮をしている。消毒や物品を整える等、快適な環境を都度心掛けている。	時期にもよるが、室温調整が難しい。ファンヒーター等併用して対応している。カーベットの汚れが取り切れない事がある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		スヌーズレンを設置してあるため、気持ちの変化に合わせて見守りの中使う事が出来る環境が整っている。聴覚が過敏な子に対し、別部屋で勉強が出来るようにしたり、仕切りを使う等の工夫をしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10		朝礼、終礼時に意見を出し合う場を必ず設けている。職員同士で話し合い、連携が取れている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	評価表を基に意向の把握する機会を設け、情報共有する事で業務改善に繋げる事が出来ている。日々の連絡業務とあわせて改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		その都度ごとに出された意見について話し合い業務改善に繋げている。毎日のミーティングで発言できる機会が整っている。	経験年数等やセオリーに関係なく色々な考えが生かせるといいと思う。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	9	アンケートや他の業務などでのやり取りがある。	第三者による外部評価は難しいが、必要であれば検討したい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		事業所内外の研修を十分に受ける機会があり外部の研修は情報が共有されている。事業所内研修を定期的に行っている。それぞれの職種に合わせた研修に参加出来ている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		個別特性に合わせた支援プログラムが作成されており、各関係者に公表されている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		定期的に家族からのアセスメントを行い、それぞれのニーズに沿い支援計画が作成されている。丁寧なアセスメントとそれを踏まえた計画作成を心掛けている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		案の段階で個別会議を設け、周知されている。作成の際には必要に応じてその都度職員間で検討が行われている。職員全員で話し合い、子供中心の計画を立てられている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		支援計画は職員間で共有、日々の活動の中に取り入れ、支援している。計画書作成後周知され、個別ファイルで常に確認が取れるようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		日常生活や5領域を含むフォーマルなアセスメントがある他、職員がそれぞれ活動する中でインフォーマルにアセスメントしている。支援記録にて具体的な行動や内容を毎回記載している。		

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		個別に合わせた支援計画内容について職員で確認し、支援できるようにしている。支援計画にはそれぞれ具体的な支援内容が設定されている。職員、家族、支援者に対し、分かりやすい表現で作成されている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		活動の様子や支援の内容を話し合い、振り返りしながら評価や支援をスタッフで共有している。児発管が中心となり日々の活動プログラムが組まれており、多職種の意見やトレーニング、制作担当者と共にチームで立案出来ている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		児童の状態に合わせ、臨機応変に行っている。トレーニングや制作など週単位でプログラムを考え5領域を含んだ活動を実施している。机上課題も週ごとに入れ替えている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10		児童の状態や得意・不得意に合わせ、個別と集団を適宜組み合わせるようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		朝礼にて連絡事項や支援内容を共有し、支援が行っている。役割分担する事でスムーズな連携支援が出来ている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		その都度活動の様子を分析し、次回に向けて支援を話し合い共有している。終礼で1日を振り返り、報告・情報共有する事が毎日出来ている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	1	個別支援記録にて活動ごとに支援内容とその状況等について徹底して記録し、振り返りの際の検討に役立てられるよう工夫している。記録だけでなく、申し送りファイルにもトラブル等記入している。	記録は残しているが、紙媒体のため遡って確認する時に手間と時間がかかる。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		変更が必要となった際、適宜見直すようにしている。定期的なモニタリングと計画の見直しを行っている。		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		基本的には児発管が児童の状態を理解した上で参加している。参加前にプラスで多職種へ情報確認を行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	1	担当者会議にて連携が取れている。また必要時に他事業所との情報交換も密に行い支援に繋げている。保育所等訪問支援等、連携を行っている。	保険、障害福祉は十分に連携出来ているが、医療機関との連携が出来ているかは不明慮。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		意向の際は情報の共有と相互の理解に努め、平行利用している施設には訪問・情報共有している。個別支援計画の提示等で行っている。節目のライフイベントを考慮した支援を行うようにしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		移行時に相談員と確認しながら情報共有している。会議等に参加し、事業所での様子や支援内容を伝えている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	5	検査結果の共有や事業所での様子、取り組みなどを情報提供している。	機会があれば積極的に参加したい。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	6	機会は設けていないが、関係機関の先生等が見学に来られる事がある。他の子供との交流は難しいが図書館など公共施設で活動する事や町のイベントに参加する事が出来た。保育所等訪問等で機会がある。	機会があれば参加や保育所等の見学をしたい。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		送迎時や連絡帳でのやり取りの中で報告、共通理解に努めている。電話連絡などでこまめに連絡をとっている。		

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10		定期的なお便りにて提示している。家族プログラムに関するチラシ等は配り、情報提供している。	家族様向けの研修会等があれば良いと思う。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		利用開始時や契約時に十分に説明を行っている。保護者から質問があった際は、丁寧な対応を心掛けている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		子どもや家族の意向を最優先に考えている。モニタリングの際に本人・家族の意思・ニーズを確認し支援計画に反映させている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10		計画書を作成するごとに書面を提示しながら十分に説明を行い同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		連絡帳や電話等で相談を受けた際はその都度周りの職員と話し合いながら助言等を丁寧に行い、必要な時には相談サービスの利用も案内できるように努めている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		10		保護者会などは開催したことはないが、機会があれば参加したい。ニーズが少ないため行っていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		職員間ですぐに情報共有を行い、改善できる点を行っている。都度迅速に協議、対策、対応するよう心掛けている。支援計画書にも記載し、家族支援として周知している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		定期的なお便りを発行し、ブログで日々の活動の様子を写真付きで発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		個人情報は一箇所にまとめ不在時は施錠し管理を徹底している。ブログで活動の様子を発信する際は名前や顔にモザイクを入れるよう留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		伝える方法を工夫しながら意思の疎通や情報伝達に努めている。特性や個々に応じた対応をしている。支援カードや伝達ツールなどの用意がされている。言葉遣いやトラブルがあった際の伝え方に特に注意している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	9	児童の特性に配慮し、関係者のみ見学を承諾している。	招待等は行っていないがそのような機会があれば積極的に参加したい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		年に1度保護者に対して各マニュアルを配布し、職員間では定期的に研修や災害を想定した実践形式の訓練を実施している。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		マニュアルを作成し、非常時に備えて定期的に備品の確認と訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		保護者に情報を貰い確認が出来ている。薬の変更等ある際はその都度更新し、てんかん発作状況もその都度ご家族や職員間で情報共有している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	2	いつでも対応できるよう留意している。おやつや二重チェックや仕切りを使う等徹底した対応を心掛けている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		1年を通し、毎月担当者が点検箇所を変え具体的な項目に対し確認・対策を講じている。問題があった際は迅速に報告し、対応している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		取り組みについてお便りや周知し、児童へは安全訓練として実施し、連絡帳やブログで報告している。緊急個人カードを記載して頂き、一覧にしてすぐに対応できるようにしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		ヒヤリハットが発生した際は速やかに対処し情報を共有、対策について話し合い再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		虐待に関する事業所内研修を定期的に行い、自身を振り返り適切な対応を心掛けている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10		身体拘束について規定がある。基本的、身体拘束は原則禁止であるが、やむを得ずの場合、療育記録への記入、保護者への報告を行っている。	